



熊本県でランピースキン病が発生しました



○11月9日、熊本県内の牛飼養農場で**ランピースキン病**が発生しました。

○ランピースキン病は、ウイルスによる**牛**の伝染病です。

○主に、**蚊、ハエ、ダニ**の媒介による機械的伝播や、**感染した牛の移動**により感染が拡大します。

○感染した牛は、**全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少**などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

○本病を発症した牛の**早期発見、隔離、移動の自粛又はとう汰**等の総合的な防疫対策により感染拡大を効率的かつ効果的に防止する必要があります。

○農場で発生した場合には、**感染牛の自主とう汰の検討、当該牛の乳の出荷を自粛、移動を自粛、同居牛のと畜場以外への牛の移動を自粛**をお願いします。

○また、本病は牛の病気であり、人に感染することはありません。



発症牛の写真：皮膚の結節 ※農林水産省提供

農場に侵入させないためには…

➤ 健康観察の徹底

牛を移動や出荷する場合には、異状がないか確認し、**異状がない場合のみ移動**させること。**異状を認めた場合には、直ちに獣医師又は家畜保健衛生所に連絡**すること。

サシバエは**24時間に21km～28km**移動する能力があるとの報告もある

➤ 害虫の駆除

殺虫剤の散布と粘着シートの併用等により、**害虫の駆除を徹底**すること。
また、農場から車両を移動させる際は**車両内外**の吸血昆虫を駆除すること。

➤ 農場内の清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を行うこと。



！ 疑わしい症状を見つけたらすぐに連絡を！



熊本県農林水産部生産経営局畜産課：096-333-2402

中央家畜保健衛生所：0964-28-6021 城北家畜保健衛生所：0968-46-2075

阿蘇家畜保健衛生所：0967-22-0041 城南家畜保健衛生所：0966-22-3814

天草家畜保健衛生所：0969-22-3668

有効な殺虫剤について

➤ サシバエを含めた対策について

【幼虫の駆除】

幼虫に効果のある剤、I G R 剤（昆虫成長制御剤）を使用。ハエのライフサイクルに合わせて月に1～2回発生源に噴霧、散布します。

【散布場所】

堆肥盤周辺、バークリーナー出口付近、スクレーパーが届かない場所、畜舎の柱や四隅の除糞しにくい場所、飼槽、水槽周辺、カーフハッチ周辺など

※吸血後のサシバエは、牛舎から5m以内の草むらで休憩する傾向があるため、この範囲の草むらに散布すると効果的

【薬剤の選択】

薬剤抵抗性への対応として異なる系統の薬剤をローテーションすると良いでしょう。

対象	使用法	系統/分類	製品名
成虫・幼虫	噴霧・散布	ピレスロイド系	フロムエイト・動物用ETB乳剤
			ペルメトリン乳剤など
		有機リン系	動物用スミチオン乳剤など
ピレスロイド・有機リン混合剤		スミロールなど	
成虫		ピレスロイド系	バイオフライ・フタスミンなど
幼虫		IGR剤(昆虫成長制御剤)	サイクラーテ・ネポレックスなど
		シアナミド	石灰窒素

※畜体に使用できない製品が多いので、畜体にかからないよう十分注意して使用してください。

有効な消毒薬について

○本病ウイルスは、**エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石鹼等**の多くの消毒薬に感受性があります。踏込み消毒槽を含め、畜舎の消毒を徹底しましょう。

○踏込み消毒槽は**汚れたらすぐに交換**しましょう。また、消毒用と水洗用の槽を用意し、有機物を落とした後に消毒しましょう。

⚠ 冬期の消毒方法の工夫点



○消毒薬の至適温度

塩素系やヨード系は20℃、その他は35—40℃。

○凍結防止

設置場所は畜舎入ってすぐ。蓋が効果的です。

車用のウォッシャー液を加えると凍結を防ぐことができ、消毒効果は変わりません。

※例えば、水+ウォッシャー液+消毒薬（5L+5L+20mL）

